

広報 京丹波7

NO.129 2016.7.15 発行 TOWN KYOTAMBA



にわか雨、上がる

contents

- 02 特集|京都トレーニングセンター完成／連載「森の京都」京丹波スタイル
- 06 受賞報告
- 08 人と人 地域と世界をつなぐみんなの手
- 10 暮らしのガイド／第5回京丹波町消防操法大会結果 ほか
- 12 いきいき健康術
- 13 KYOTAMBA まちの元気人
- 14 FLASH まちの話題
- 16 第4回京丹波町観光写真コンテスト入賞作品



施設内覧会に町内外の各種団体など

6月20日から7月10日にかけて施設内覧会が行われ、町内や近隣市町の学校やスポーツ団体などが見学しました。蒲生野中学校ホッケー部は6月24日、顧問の久保克敏教諭と部員18人がトレーニング設備の体験や宿泊施設を見学。久保教諭は、「素晴らしい施設と聞いていたが、改めてその充実度に驚いた。生徒にとってもモチベーションが上がる。今後の競技指導への活用については、まずはトレーニング方法から模索し、数年後には競技振興につながる結果を出せたら」と期待しています。



コンディショニングルーム
コンディションをチェックし、選手自身が実践できる方法を提供。カウンセリングにより、ジュニア選手に必要なメンタルトレーニング方法も提供。

7/16 供用開始

特集 京都トレーニングセンター完成

ジュニアアスリートの体力・競技力の向上と絆づくりの拠点となる「京都トレーニングセンター」が京都府立丹波自然運動公園内に完成。6月18日、センター内トレーニング場で竣工式が行われ、地元選出国会議員や関係省庁、京都府関係者、京丹波町関係者など約180人が完成を祝いました。



ウェイトトレーニングルーム
フリーウエイト、筋力トレーニングマシン、エルゴメータなどを備えている。約300㎡。科学的測定を基にしたトレーニングの開発と実践。



ワンストップのトレーニング環境を実現 選手の潜在能力を引き出す支援体制を構築

「京都トレーニングセンター」は、ジュニアアスリートの体力・競技力の向上を図る拠点として、フィジカルトレーニング機能、指導機能、相談機能、交流機能、宿泊設備を一体化。選手にとってワンストップのトレーニング環境を備えています。

なかでもトレーニングセンター棟に設置されているトレーニング機器は、オリンピックやパラリンピックのような国際競技大会に出場する選手が、日頃からトレーニングに用いる国際規格の機材です。体力・動作を数値化し、客観的に分析する筋力測定機器、動作分析機器も配置されており、実際のスポーツ動作と比較しながら複合的なトレーニングが可能となります。スポーツ合宿をしながら、近隣の大学や京都府スポーツセンターなどの関係機関と連携を図り、科学的なトレーニングが行える、全国初の施設です。

また、生活習慣病やメタボリックシンドロームなどの予防、体力増進を目的とするトレーニング、栄養面の指導など実践的な支援を行います。

多様なスポーツニーズに応える環境整備を

京都府内の体育施設は、昭和六十三年の京都国体を契機に八十九施設を新設、改修しましたが、その後、新たな公共スポーツ拠点の整備は行われず、施設の老朽化が進み、公共スポーツ施設数は、人口規模が近い他府県と比べて非常に少ない状況でした。

一方で京都府の競技力は、京都国体開催以降も上位の成績を収めており、さらに競技力を高めるために関係者から施設充実が求められていました。また、スポーツによる健康づくりや新たなスポーツの普及が進み、生涯スポーツ環境の整備も課題でした。さらに、プロスポーツなど高度な技術と迫力のある試合観戦を通して

浴室

洗い場、浴槽、水風呂を備えた浴室が、男女別に各1カ所。家族や小グループでの利用に小浴室もあります。



食堂(イス・小上がり計160席)、レストラン(50席)

基本的なスポーツ栄養学、食育の観点からジュニア選手への栄養指導を実施。生活習慣病を予防する食生活の提案も行います。



体力測定室

左右の筋力差などを測定し、トレーニング方法に反映。



動作分析室

身体フォームを二次元動作分析し、トレーニングに反映。



森の京都「京丹波の森づくり」マスタープランで、シンボルゾーン（重点エリア）に位置づけている京丹波高原エリアは、まちの玄関口となる京丹波PAから目の前に広がる京都府立丹波自然運動公園一帯を交流拠点としています。

京丹波町産の木材を使用 府内最大の木造公共建築

トレーニングセンターは、宿泊室54室にレストランや浴室などを備えた宿泊棟（木造・鉄骨／地下1階、地上2階／約4,568㎡）とトレーニング棟（木造／地上1階／約930㎡）から成り、建設事業費は約21億円。京都府は、公共工事への京都府産認証木材や京都木材規格材の利用を積極的に推進しており、同施設には本町産のスギ材・ヒノキ材を800㎡使用。梁や柱などは木構造で、外壁を覆う木肌が、大規模な建物を景観と調和させています。

山田啓二京都府知事は竣工式の式辞で、「本年は森の京都がテーマであり、私たちはいかに

森林の恩恵を受けているかを知り、木の優しさを味わいながら暮らすことが大切だ。この府内最大の木造施設が、森の京都のシンボルとしても府民の皆様に愛される施設になってほしい」と期待。アスリートの強化活動だけではなく、自然体験や健康づくりなどへ活用の幅が広がります。

京丹波町では、京都府と連携し、自然環境を生かしたレクリエーションと健康食、高度なスポーツ施設を組み合わせ、心身ともに美しく健やかになる「健幸（けんこう）」プログラムの創出や滞在型の体験プログラムなどを実施していきます。

公園内の既存施設は 機能充実に向け再整備

公園内の既存施設は、「丹波自然運動公園スポーツ施設改修整備計画」に沿って、選手らが安心

スポーツを楽しむニーズも高ま
ようり、競技者中心であった施設
整備は観客やボランティアスタッ
フなどの一体感を醸成できる整
備が求められています。
こうした情勢を踏まえ、「京都
府におけるスポーツ施設のあり
方懇話会」が審議を重ね、平成二
十五年度に京都トレニングセ
ンター構想「丹波自然運動公園
スポーツ施設改修整備計画」を
策定。構想に基づき、①ジュニア
選手の体力・競技力向上や選手
間・指導者間の交流を促進する
拠点として②安心・安全なトレ
ニング環境づくりと指導力の向
上の拠点として③災害時の防災
拠点として、整備されました。

防災拠点として活用

丹波自然運動公園は京都府中
部地域の広域防災拠点に位置づ
けられており、大規模災害時の応
援部隊の宿泊場所、備蓄倉庫、支
援物資保管場所などに活用され
ます。
災害対応型のLPガスバルク
供給システム、太陽光発電・蓄電
池システムが整備され、平常時は
研修室や食堂への給電に使用さ
れます。

公園協力会と町教委が センター活用の連携協定

丹波自然運動公園内の各施設
を活用し、本町のスポーツ振興や
競技力の向上、教育の充実・発展
となるよう、京都府立丹波自然運
動公園協力会と京丹波町教育委
員会が五月二十六日、連携に関す
る協定書を締結しました。

連携事業として、蒲生野中学
校と瑞穂中学校をホッケー競技
の指定校に、丹波ひかり小学校を
陸上競技の指定校とし、それぞれ
競技力の強化を推進。東京オリ
ンピック事前合宿誘致の実現に
よる、本町ホッケー競技の推進を
目指します。また、体育協会事業
やスポーツ少年団活動、スポーツ
推進委員活動などの地域スポー
ツ普及にも積極的に活用します。
町民の健康づくりのための活用
も期待できます。



京都府体育協会三色旗功労賞

町体育事業の振興の要として尽力

中野 昭会長

京丹波町体育協会の中野昭会長が京都府体育協会三色旗功労賞を受賞。六月四日に京都府スポーツセンターで表彰式が行われました。

三色旗功労賞は、京都府体育協会から長年の功労者に対して贈られるもので、同会最上位の賞です。本町での受賞は初めて。中野会長は昭和六十一年、旧丹波町スポーツ少年団本部長に就任され、昭和六十三年の京都国体ホッケー競技開催に向けて、町内への競技普及や指導者育成に努められました。平成四年からは旧丹波町体育協会の役員を歴任され、本町のスポーツ振興に尽力。町合併以

降は、町体育協会会長として各種事業の見直しや定着に向けて取り組まれました。

受賞について、「地域の皆さまのご支援や家族の支えがあったからこそ今日があります。今後は、本町が有する全国有数の人工芝ホッケー場や京都トレーニングセンターなどの素晴らしいスポーツ施設をしっかりと地元で活用できるようにしたいです。また、町のスポーツ事業がより発展するよう人とのつながりを大切に貢献させていただきたいです」と抱負を話されました。



「かつて指導した選手らが、現在は指導者となって次の世代を育成しており、願いがありません」とのこと。



受賞報告会で意気込み新たに。(6月29日/道の駅「和」)

近畿管区警察局長・近畿防犯協会連絡協議会長賞

地域の防犯、安心づくりに長年の貢献

南丹船井防犯推進委員協議会和知支部

南丹船井防犯推進委員協議会和知支部(大田喜好支部長)の長年の積極的な防犯活動に対し、近畿管区警察局長・近畿防犯協会連絡協議会

長賞が贈られました。

同協議会和知支部は平成六年に活動を開始され、結成二十二年になります。毎月二回の青色防犯パトロール車によるパトロール、毎日の小・中学校の登下校時の見守り、独居高齢者宅の安否確認や警察との街頭啓発活動などを継続的に実施されてきました。長年にわたり、地域防犯ボランティアとして、地元自治会や学校、PTAなどと連携し、防犯意識の高揚や安心感のあるまちづくりに取り組まれた功績が、近畿六府県のなかで認められました。

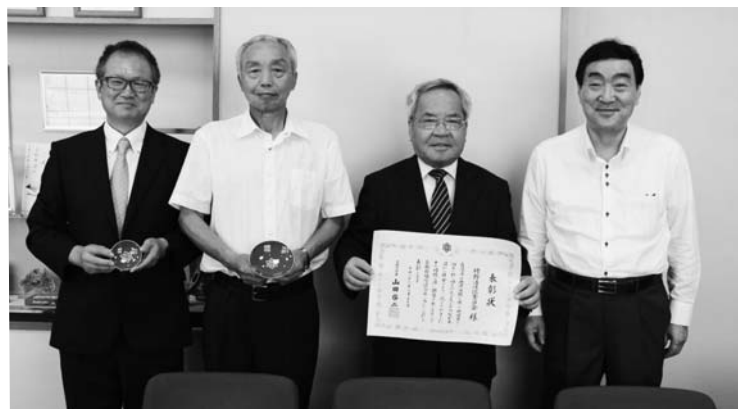
大田支部長は受賞について、「会員それぞれに仕事を持ちながら、防犯ボランティアとして積極的に活動いただいております。感謝の気持ちでいっぱい입니다。この受賞を機に一層、安心で安全なまちづくりに頑張っていきたいです」と喜びました。

京都府地域力再生功労者・団体表彰

住民それぞれの立場で地域づくり 竹野活性化委員会

竹野活性化委員会(中西和之代表)の取り組みが、地域力の向上に貢献したとして、京都府地域力再生功労者・団体表彰を受賞。六月十七日に京都府立府民ホールで開催された京都府開庁記念日記念式典で表彰式が行われました。

同委員会は、竹野小学校校区九集落の住民や地区内の団体、事業所、



「無理のないよう地域の皆さんと一緒に着実に歩みたい」とのこと。

学校が構成員となり、平成二十五年六月に設立。「とりあえずやるかいな」をキャッチフレーズに竹野サロンや地域行事を開催され、住民相互の交流と住民主体の文化・学習、健康増進、福祉活動に取り組まれています。住民一人ひとりが、地域の課題解決に向けてそれぞれの立場で参画し、相乗効果を上げておられます。

受賞について中西代表は、「これからも頑張るようにと激励の意味でいただいたと思っています。地域活性化の取り組みはイベントで終わらずに継続することが大事。常に活動を見直し、振り返りながら進めていきたいです」と受け止め、徳岡信男副代表は、「毎週開設のサロンをベースに、地域全体で協力し合う雰囲気があり、皆で活動を支え合っています」と地域住民の協力を感謝されました。

まちづくり功労者・国土交通大臣表彰

道の駅「京丹波 味夢の里」整備の効果 京丹波町

京丹波町が平成二十八年度まちづくり功労者(国土交通大臣表彰)を受賞し、六月十日、寺尾豊爾町長が東京都内で行われた表彰式に出席しました。

国土交通省では、毎年六月の「まちづくり月間」啓発活動などの一環として、魅力あるまちづくりに著しい功績のあった個人や団体を表彰しています。京丹波町は、道の駅「京丹波味夢の里」の整備において、京都縦貫自動車道と一般道路の双方からアクセス可能としたことで、道路利用者の休憩ニーズと地域振興ニーズを結びつけ、京都府中部地域の活性化と広域的な交流形成に貢献したことが評価されました。

表彰式では、「味夢の里」に数多くの特産品が並び、地元食材をふんだんに使った飲食ができるなど、道路利用者や出荷者などに喜ばれている様子が紹介されました。

寺尾町長は今回の受賞について、「大変励みになります。地元をはじめ、沿線市町の皆様にも喜ばれる施設に成長しつつあることがうれしく、これまでの取り組みに確信を持つことができました」と喜びました。



道路利用者と地域振興の二ーズを結んだ「京丹波 味夢の里」。

人と人 地域と世界をつなぐ みんなの手

住民自治組織などの活動記録
ふるさとDIARY

地域の課題解決、暮らしを楽しく、さまざまな目的で
地域運営や活性化に取り組まれている皆さんの活動を紹介し



今月の活動日誌

1 ターン家族と世代間交流

竹野活性化委員会

結成4年目を迎える竹野活性化委員会は、竹野小学校を中心としたまちづくりを行っています。

6月4日の総会では、綾部市志賀郷の井上吉夫氏に子どもと古民家をつなぐ活動について、お話いただきました。地元の小学校が複式学級になることを回避されたお話は、里を思う気持ちがひしひしと伝わり、改めて私たちのふるさとを考える良い機会となりました。また、ターンで竹野地域に住むご家族を交えてパネルディスカッションを行い、小さい子どもをもつ家族と地元住民が交流できるとも良い機会になりました。パネリストは、自然豊かな環境で子育てをし、生活する素晴らしさや、地域や学校が歓迎してくれていることがうれしいという話をされました。地元の参加者は、新しく移住された家族とふれあう機会が持てて良かったと話されていました。

今後、当委員会では空き家の調査と有効活用の検討を開始し、ターン、Uターン、孫ターンの受け入れの取り組みを進めていきます。

【文：金延 英樹さん】

梅干し用の青梅収穫
質志「野路の会」
質志の農家女性グループ「野路の会」の梅干し作りが始まりました。質志には梅の木が多く、毎年美をつけながら放置されている木もあり、「野路の会」が土地の恵みを生かそうと平成十五年から作り続けています。梅と赤しそ、塩にこだわった昔ながらの味わいが人気で、昨年は400詰を製造し、すぐに完売しました。



洗って乾かし漬け込む。

六月中旬から七月中旬にかけて、会員と「おいしい食の応援隊」ボランティアが、青梅を収穫し、「今年の実の成り方にバラつきがあるが、昨年並みを目標に製造したい」と汗を流しました。



高く伸びた枝先に鈴なりの梅は、揺すり落として集める。



かるたは、A5サイズ(148×210ミリ)で見やすい。
(左)松本正子さん(右)中西陽子さん。

ふるやの思い出や誇り 質美郷土かるた完成

質美地区の自然や行事、体験などを短歌に込めた「質美郷土かるた」が完成。六月に歌集を各戸配付し、かるた二セットは地域の集まりなどで楽しめるよう質美振興センターに保管されています。質美地域振興会の文化環境部会が、地域を見つめ直すきっかけにしようと昨年八月から約三カ月間、区民へ公募し、昔の遊びや四季の風景など

里山に舞うホタル鑑賞 ほたるファンタジー

広野大簾活性化委員会主催の「ほたるファンタジー」が六月十八日、大簾集落内で開催され、約四百人が一足早く夏祭りの気分を味わいました。

同委員会は、ホタル鑑賞を通じて地域住民が交流する機会にしようとして平成二十三年から毎年開催し、地域外からの参加も増えました。竹筒のキャンドルの淡い光が大簾川沿いの散策道を示し、ホタルが舞い始めると幻想的な光景が描き出され、家族連れなどが「いっぱい飛んでいる。あつちにも」と歓声を上げました。また、流し

サロン梅田2周年記念 手打ちそば販売

旧梅田保育所の一室を改装してオープンした「サロン梅田」が二周年を記念し、六月十八日、喫茶で新そばの手打ちそばを販売しました。

サロンは梅田地域振興会が、毎



焼き上がりが待ち遠しい窯焼きピザ。窯の中を見つめ待つ。

うどんや石窯ピザ、かき氷などの手作り屋台、歌謡ショーもあり、賑やかなひと時をすごしました。

月第一・第三火曜日に開いており、平成二十七年度は延べ三百四十人が利用。「もったいない屋みずほ」や梅田図書室と合わせて、地域住民の憩いの場になっています。そばは、瑞穂そば認定を受けた三人が打ち、好みで朝採り地野菜のかき揚げが添えられました。上田正副会長は、「今後もこのペースでサロンを続けたい。交通手段の課題はあるが全地域から来ていただければいい」と三年目に思いをはせました。



「食感が良く、とても美味しい」と40食があっという間に完売。

食べ物に、もったいないを、もういちど。



NO-FOODLOSS PROJECT

るすのん

好きな食べ物 刺身のつま、パセリ
好きな言葉 残り物には福がある

食品ロスの削減に向けて

食品ロスとは、「まだ食べられるのに捨てられている食べ物」のことです。年間の食品ロス量は、食品関連事業者から、規格外品・返品・売れ残り・食べ残しによるものが、年間330万トン。一般家庭からは、食べ残し・調理のときの過剰除去・直接廃棄によって年間302万トンにもなり、世界全体の食糧援助量の約2倍にあたります。

食品ロス量の約半分が一般家庭から。国民一人当たりの食品ロス量は、一年間でおおよそ茶碗164杯分のご飯の量に当たります。(農林水産省平成25年推計/茶碗一杯150gと仮定)

私たちも自分の生活を振り返ってみませんか？

食品ロスを減らすために、ちょっと提案

調理で作り過ぎない、余ったら作り替える

使いきりレシピや作り替えレシピが満載の「消費者庁キッチン(公式ページ)」をご利用ください。



「消費者キッチン」QRコード



買い物は“必要な量”を“必要な時”に購入する

「賞味期限」はおいしく食べることができる期限。過ぎてしまってもすぐに廃棄せず、食べられるかどうか自分で判断することも大切です。



フードバンクを活用する

品質上問題がない規格外品を積極的に購入しよう

フードバンクでは、食品事業者や生産者から包装の印字ミスや規格外などの理由で販売困難な食品の寄付を受け、無償で提供しています。食べ物を捨てることなく、命をつなぐ糧として食物の本来の価値を全うできます。



外食はお店選びに工夫を

量を「多め」「少なめ」など選べるお店を選んで食べきれないようにしよう

飲食店の食品ロスは、客の食べ残しが一番の原因。最近、糖質制限ダイエットの影響で「ライス残し」が多発しています。



捨てられた食品を焼却処分することで、二酸化炭素の排出量が増加し、環境にも悪影響があります。

「食べ物をもったいない」という気持ちで、家計や環境に配慮した行動を起こしましょう。

【消費生活に関する連絡・相談先】

京丹波町消費生活相談窓口 TEL.0771-82-3803 (相談日) 水・木曜日

町消防操法大会で訓練の成果発揮

最優秀賞にポンプ車操法は丹波支団第二分団 小型ポンプ操法は丹波支団第四分団

第五回京丹波町消防操法大会を六月五日に行い、各分団が約三十日間にわたり、訓練を重ねた成果を発揮しました。操法とは、消火作業の一連の動作で、ポンプ車操法の部は五人一組、小型ポンプ操法の部は四人一組で行います。技術向上と団結心を養うことを目的に二年に一度、その正確さや速さなどを競います。

当日は、要員の家族や消防団OBなど多くの人が見守るなか、ポンプ車操法の部に三隊、小型ポンプ操法の

部に十五隊が出場。指揮者の号令のもと全力で駆けました。隅田光郎団長は講評で、「いずれも規律正しい操法を披露した。技術力が向上してきたことを感じた」と評価しました。

最優秀賞の二隊は、第二十四回京都府消防操法大会出場に向けた訓練開始の前日六月十四日に、結団式を行いました。出場選手は、辞令交付を受け、寺尾豊爾町長の激励と隅田団長の訓辞に対し、決意を表明しました。

ポンプ車操法の部

最優秀賞 丹波支団第二分団
優秀賞 和知支団第三分団

小型ポンプ操法の部

最優秀賞 丹波支団第四分団
優秀賞 丹波支団第二分団
和知支団第二分団
団長奨励賞 瑞穂支団第一分団

個人の部

【ポンプ車操法】

指揮者 久保田 剛(丹波支団第二分団)
一番員 山内 規彰(丹波支団第二分団)
二番員 鎌部 泰春(和知支団第三分団)
三番員 森内 慎吾(丹波支団第二分団)
四番員 村井 大樹(瑞穂支団第一分団)

【小型ポンプ操法】

指揮者 片山 聡(和知支団第四分団)
一番員 森 暁彦(和知支団第四分団)
二番員 江本 貴繁(和知支団第二分団)
三番員 伊野 琢人(丹波支団第四分団)

【敬称略】

丹波支団第四分団



「指導員が終始つきっきりで指導してくれました。支援いただいた皆様のおかげです。府大会に向けて訓練を頑張ります」



丹波支団第二分団

「つらい訓練に耐え、結果にほっとしています。多くの人に支えていただき感謝しています。府大会でも良い結果が出せるよう頑張ります」

小中学校の英語指導助手として平成25年8月から勤務していたバンハルデレン・ニコラス・マイケル先生が、7月末日で任期を終えニュージーランドへ帰国します。

英語指導助手ニコラス先生から町の皆さんへのごあいさつ

私は最初に京丹波町に来たとき、1年間いるつもりでした。でも、何カ月後には2年間のようという気持ちになりました。結局私は3年間ここにいたことになります。

この3年間、入学式や体育祭、文化祭、卒業式などいろいろな行事に参加し、感動することがたくさんありました。子どもたちの日々の成長を身近で見ることができたことも幸せなことでした。この素晴らしい自然に恵まれた京丹波町で、春は満開の桜を見て、夏はセミの声を聞き、秋は紅葉を味わい、冬は新雪に足跡をつけるなど、季節ごとに楽しい体験をすることができました。仕事仲間や地域の人たちなどいろいろなイベントで知り合った方々と親しくできたこともうれしいことでした。さまざまな人や自然との関わりを通して、日本の文化や習慣、考え方などに触れたことは私自身を変えていきました。

京丹波は私にとって二番目の故郷になりました。どこへ行こうとも忘れられないでしょう。この町で過ごし、学んだことを今後に生かしていきたいと思えます。お世話になった皆様ありがとうございました。

Don't forget your giant, Kiwi English teacher!





午前七時二十五分、「おはよう」「おはよう」とあいさつを交わし、質美・下村地域の府道沿いにある老ノ路集会所に女性たちが集まってきた。カセットデッキから流れるおなじみのメロディに合わせてラジオ体操が始まった。

毎朝、皆が顔を合わせてラジオ体操をするようになり、この七月末で丸二年になる。正月三日を除く三百六十二日、雨の日は軒下で、雪の日は足元の雪を避け、欠かさず続けている。

同地域では、週一度の朝市でラジオ体操をしてきたが、平成二十六年の夏に朝市を閉めることになった。これがきっかけとなり、「外でラジオ体操をしたら、夏休み中の子どもたちも出て来やすくなるのでは」との思いもあって、下村公民館前(建て替え中)でラジオ体操を始めた。

「以前は歩きにくかったが、すたすたと歩けるようになり、跳んだりはねたりできるようになった」と大西昌子さんは体調の変化を実感している。大西好美さんも「足の痛みが和ら

みんなでラジオ体操

質美・下村地域の皆さん

いで走れるようになった」とうなずき、中西陽子さんも「確実に体調が良くなっている」と振り返る。また、休む人があれば、病気ではないかと気にかけて声をかけ合うなど、お互いの安否確認にもなっている。

「体操に来ているおかげで皆さんの元気な顔を見ることができ、ふれあいがあることが一番うれしい。若い人から元気をもらっている」と喜ぶメンバー最高齢の大西正子さん。八十八歳代は、「若い人が気張ってくれるおかげ」と感謝し、年下の世代は、「先輩方のそういう言葉に引っ張られている」、「家の中にいるだけでは分からないような区内のニュースを知ることができると自然に人の輪ができている。」

現在は、ラジオ体操の第一・第二を行っているが、第三も加えてはと提案が出ている。「いつもは話しながらやっているけど、今日は動きが合っていた。やっぱり続けていたら身につくなあ」と体操の輪が、体力と気力に実りをもたらしている。



いきいき健康術 第107回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。

『気管支喘息』



おた たいし 医師 / 京丹波町病院小児科(府立医大)
太田 武志

今回は外来をさせていただいている中でよく出会う病気の一つである気管支喘息についてお話しさせていただきます。

そもそも気管支喘息とはどういったものなのでしょうか？

過去には、気管支が機能的に収縮を繰り返す病気と考えられていました。現在は、気管支にアレルギー性の炎症が起こることが主な原因と考えられています。私自身は気管支喘息についてお話すときは、例えとして肺炎は肺に火事が起こっている状態で、気管支喘息は気管支になかなか消えないボヤがくすぶっている状態とお伝えします。(あまりうまくない例えかもしれませんが)。

治療方法・期間は症状の程度により異なります。内服薬だけの治療の場合もあれば、吸入ステロイドなどの追加治療を必要とする場合があります。吸入ステロイドの使用方法は、自分で薬剤を直接吸入する場合と、小さいお子さんはなかなか自分でうまく吸入ができないことが多いので吸入器という機械を使用することが多いです。気管支喘息は風邪や気管支炎などのように短期間治療をして治癒するものではなく、年単位の治療期間を要する場合もまれではありません。また、いわゆる喘息発作の場合は、入院し

てのステロイドの点滴治療が必要な場合もあります。

気管支喘息は、ゼーゼーしているなどの症状にご家族が気づかれて受診される場合があります。毎年決まった時期にゼーゼーしたり咳をすることが多かったり(咳喘息というものもあります)ということなどあれば、一度小児科の先生にご相談されてはいかがでしょうか。



京丹波町病院 小児科予防接種
毎週木曜日 / 午後1時~2時30分
土曜日 / 午前10時~11時
(事前申込み制) TEL.(0771)86-0220

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。



7輪咲きのササユリ
深緑内でほのかに香る

投稿者: 藤田 真さん(西河内)

自宅裏の山の斜面で草刈りをしていて見つけました。毎年2〜3輪の花をつけていましたが、7輪も咲かせたのは今年が初めてです。

～身近な出来事をお寄せください～

あなたの身の回りのちょっとした発見や話題などを、写真、文章、イラストなどでお寄せください。お待ちしております。

企画政策課(京丹波町役場本庁内)
■kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp
または各支所まで



初夏の風物詩 鮎の友釣り解禁

和知川の鮎友釣りが6月19日に解禁となり、早朝から釣り客の鮎ざおが立ち並びました。友釣りは、鮎の縄張り習性を利用し、おとり鮎を追い出そうとする鮎をかけ針で釣る漁法。鮎のエサとなるコケの付きが良く、足場のある瀬が釣り場になります。

上粟野では、仏主出身の岡本利明さんが約1時間で20匹程度の釣果を上げ、「水量が少なく期待していなかったが、思っていたより釣れている」と順調な様子。和知川漁業協同組合員が流域を巡回しながら、釣り客と今夏の釣果見込みなどを情報交換していました。



町立小学校プール開きに歓声

6月、町内の各小学校がプール開きを迎えました。下山小学校では、最も早い6月10日の3・4校時、3・4年生がトップを切って水しぶきに歓声をあげました。同校では昨年より7日間早くプール授業を開始。この日は気温26度、水温25度。蒸し暑いながらも風があり、寒がる児童もありましたが、水中ジャンケンや水中の「宝探し」ゲームを楽しみました。

一枚写真で町の魅力語る
多彩な作品九十四点
京丹波町観光協会主催「第4回京丹波町観光写真コンテスト」の表彰式が六月三十日、町中央公民館で行われました。コンテストは、「わたしが見つけた京丹波の観光資源」をテーマに四季折々の名場面を募るため、昨年四月から告知し、平成二十八年一月二十五日から二月二十七日までを応募期間として実施。町内外から、京丹波町の景観や伝統行事などを題材とする九十四点が集まり、三月二十二日の審査会で入賞作品九点を決定しました。表彰式では、橋本健次審査委員



特選・京丹波町長賞を受ける山下文行さん。

長(写真家)が、一点ずついいいに講評しました。
※受賞作品及び受賞者の紹介は十六ページ



利用期を迎えた森林の活用と林業経済の再興に向けた施策について語る今井長官。

林野庁長官に林政学ぶ
林業大学校生の視点鋭く
京都府立林業大学校生など五十人が、林野庁の今井敏長官から、日本の林政について学びました。今井氏は、「林業を担う皆さんへ」と題し、国内の森林資源が国内需要をまかなえるだけの増加量を持ち得ること、新たな木材需要や製品開発の可能性、課題について説明。学生から、CLTの競争力について、また、新築需要のみならず空き家対策としての木材需要についてなど、鋭い質問が投げかけられました。



いずれの種目も過去最高記録の更新はならずとも、参加者は好成績を収めました。

体力年齢の壁破る
シルバーオリンピック開催
高齢者の健康づくりと参加者の親睦を図ることを目的に、第十一回京丹波町シルバーオリンピックが六月十八日、瑞穂小学校グラウンドで開催されました。
町在住・在勤の六十歳以上の三十一人が参加。五〇メートル走やソフトボール投げ、輪投げなど認定五種目や体力測定コーナーの六種目で記録を競いました。

わたしたちの町

人口	15,018(-7)
男	7,109(+4)
女	7,909(-11)
世帯数	6,385(±0)
7月1日現在/()は前月比	

義援金などの受付状況

東日本大震災および熊本地震の被災地支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
東日本大震災義援金	9,626,506円
熊本地震義援金	1,495,105円
復興支援募金	7,021,712円

*平成28年6月30日現在

ご寄付のお礼

ふるさと応援寄付金(ふるさと納税)をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

金澤 祐二さん	1万円
安田 信明さん	1万円
片山 山治さん	10万円
田口 貴嗣さん	1万円

(掲載内容は寄付者の申し出にもとづくもの)

編集後記 ホタル撮影に失敗。ジグナーズラックも訪れず出来の悪さに娘と大笑いし、ある意味、心に残りましたが記事にはならず…。昔、撮影のセッティングで雲海の時間帯を外してしまい、カメラマンから日々その瞬間が一期一会であると論されたことを思い出しました。改めて肝に命じ、現場に臨んでまいります。



義援金箱は引き続き設置されています。

四つの道の駅から義援金
熊本地震被災地復興支援に
町内四方所の道の駅の各駅長らが六月一日、熊本地震義援金を町役場に届けました。各駅では四月十八日から義援金箱を設置し、五月末までに各駅合わせて総額約七十八万円が集まりました。
義援金は、被災地の復興に役立てられることを願い、京丹波町から日本赤十字社へ送金しました。



特選 京丹波町長賞「京丹波初秋の空」 山下 文行さん(亀岡市)

第4回京丹波町観光写真コンテスト入賞作品(関連記事.P15)



準特選 京丹波町教育長賞「バルーンに夢馳せて」
柴 佳孝さん(京都市)



準特選 京丹波町商工会長賞
「厳寒」
大澤 敏夫さん(南丹市)



準特選 京都府観光連盟会長賞
「みんな笑ってハイッチーズ!」
片山 悠さん(京丹波町中)



準特選 京丹波町観光協会会長賞
「稲田の寸描」
土岡 英一さん(京都市)



準特選 京都新聞賞「怖い」
廣瀬 誠さん(京丹波町角)

入選

田中 博さん(京都市)
荒木 孝允さん(丹波市)
築山 忠則さん(京丹波町小畑)

第5回京丹波町観光写真コンテスト応募期間は、平成29年1月22日から2月25日まで。京丹波の観光資料をとらえた作品をお待ちしています。

[問] 京丹波町観光協会 電話0771-89-1717